2023年度日本認知症ケア学会・認知症ケア賞　功労賞

雨　宮　洋　子（あめみや　ひろこ）
社会福祉法人泰生会

【授賞理由】

永年にわたり認知症の人がより幸せな生活を送ることができる居場所づくりを続けてこられました．認知症の人や地域社会のニーズを理解し行政との交渉から制度化への貢献など多くの困難を乗り越えた姿勢は尊敬に値するものです．このような地道な活動があったからこそ認知症に対する社会の意識を変革することができたといえます．

【略歴】

1986年 7 月～1987年 3 月	社会福祉法人泰生会
1987年 4 月～1988年 3 月	総合ケアセンター泰生の里　次長
1988年 4 月～1989年 9 月	総合ケアセンター泰生の里　副施設長
1989年10月～1996年 8 月	社会福祉法人泰生会　理事
1996年 8 月～2003年10月	社会福祉法人泰生会　常務理事
2003年10月～	社会福祉法人泰生会　理事長

【褒賞】

・大分合同新聞社福祉賞
・天皇陛下御下賜金
・日本認知症ケア学会　読売認知症ケア賞　奨励賞
・全国市区選挙管理委員会連合会表彰
・社会福祉功労者厚生労働大臣賞表彰
・日本福祉文化学会　福祉文化実践学会賞
・別府市特別功労賞表彰
・秋の叙勲　瑞宝双光章

【業績等】

1980 年代，認知症を患った人々の居場所は，自宅の隔離部屋か精神病院に限られていました．私の夫は精神科医で多くの認知症患者を診てきましたが，認知症は医学だけで治すことができないと感じ，病院ではなく生活を主体とした居場所を作ることを考えました．そのために，生活環境を整え，人間らしい日常生活が送れるような施設の設立を計画しました．しかしながら，当時は認知症の方が特別養護老人ホームに入所することはできませんでした．

そこで，行政と交渉し，認知症の方が生活できる特別養護老人ホームの設立に向けて動き始めました．当時は珍しい試みであったため，多くの困難が予想されましたが，私たちは認知症を患った方々が最後まで悔いのない，幸せな人生を送れるようにという思いから全力を尽くし設立にいたりました．

法人設立から 37 年が経過しましたが，この間，介護保険制度により要介護状態になっても社会で見守って行けるようになり，家族に介護を強いることなく生活できるようになってきました．また，認知症についても多くの医師，専門家，研究者などの働きかけにより，社会や地域，家族も認知症への意識改革が進み，認知症があっても地域で生活できる体制が整ってきています．

私たちは，施設としてその一端を担い，今後も活動を続けていきたいと考えています．認知症があっても，その人らしい生活を穏やかに送れるように，必要なサポートを提供することが私たちの目的です．これからも，地域のみなさまや関係者と協力し，認知症についての理解を深め，認知症の方々が地域で暮らせる環境づくりに取り組んでまいります．